

令和4年度の学校評価

〈本年度の重点目標〉			
1. 自ら学び考え行動する態度の育成 2. 自立活動を含めた適切な指導と評価 3. チャレンジ精神 4. 地域連携の推進 5. 基本的生活習慣や社会人としてのマナーの育成 6. 安全で安心できる学校			
学部	重点目標	具体的方策	留意事項
幼小学部	基本的生活習慣や社会人としてのマナーの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児児童のトイレの使用や排せつに関する実態を捉え、課題を明確にした上で個々に応じた支援をする。 ・毎月発行される学年だよりを通して、取組の様子を保護者に伝え、共通理解を図る。 ・部別朝会や各学年の取組の中で幼児児童に正しいトイレの使い方について具体的に伝えたり、視覚支援を使って分かりやすくしたりして、それぞれが適切な方法を意識しながらトイレを利用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレの使用や排せつについての目標を月ごとに定め、部別朝会での発表や掲示板の利用などを通して、幼児児童・教職員が目標を意識できるようにする。 ・毎月の目標や幼児児童の取組の様子を学年だよりに掲載することで、保護者がより意識できるようにする。
	自ら学び考え行動する態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットなどを活用し、新しい生活様式に対応した方法で、幼児児童の興味関心を促しながら、小学部の目標を幼児児童に周知していく。 ・校務支援システムの掲示板を利用して他部へ、ホームページを利用して各家庭や施設へ日常の取組を伝えると同時に、家庭での支援にもつなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月目標の啓発を動画や写真にすることで、各学年が柔軟に取組を意識できるようにする。 ・月目標をホームページに掲載し、家庭への情報を発信する。
中学部	自立活動を含めた適切な指導と評価	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の授業等を録画し、部や学年等で研修（ケース会等を含む）の機会を設けて職員の専門性の向上の一助にする。 ・三観点を含めた適切な評価を行うために、部や学年で話し合う機会を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の指導の様子を録画し、学年会などで共有する。
	基本的生活習慣や社会人としてのマナーの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶週間や挨拶運動を設定する。 ・「おはようございます」「失礼します」などの掲示を教室の入口に掲示する。 ・作業学習や実習等の特定の時間において、言葉遣いや丁寧な言い方、身だしなみチェックを指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が教室に出入りする際に、適切に挨拶ができていないか確認し、必要に応じて言葉掛け等の支援を行う。 ・作業服の正しい着こなし方を写真を使って伝える。
高等部	自ら学び考え行動する態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的で対話的な深い学びの取組を様々な学習の場面に取り入れ、自発的な学びを促す。 ・見通しをもち、安心して学びにむかえるような学習環境をととのえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を明確にしたり、振り返りの時間を設定するなどして、部や学年で一貫した指導・支援を行う。 ・繰り返しを大切に、うまくいかなくても大丈夫と思える考え方や受け止め方の経験を重視する。
	基本的生活習慣や社会人としてのマナーの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業や実習などにおいて、社会人としての自覚をもてるような体験や学習を多く取り入れる。 ・教師が手本となり、繰り返し実践を行う中で、正しい挨拶や言葉遣いの定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の生活と関連させ、社会人としてのマナーなど、より具体的な場面を示すことで、その必要性を生徒一人一人が実感できるようにする。 ・生徒が理解しやすいように、教師間で連携を図り、一貫した指導・支援を行う。
施設内教育 けやき	地域連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・主治医、病棟職員、その他関係諸機関との情報交換・共有や保護者との懇談などから児童生徒の実態把握に努め、指導・支援の充実を図る。 ・前籍校から個々の目標や実態に関する情報を、児童生徒の転入時に速やかに得るとともに、関わる職員全体で共有し、支援の在り方について検討する。 ・転出先職員と退院後の学校生活における有効な指導・支援等について連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談や各カンファレンスを通して児童生徒の実態把握に努める。 ・病棟職員と連携して児童生徒に関する情報共有を行う。 ・児童生徒転入時は、全籍校からの情報を整理して職員間で共有するよう努める。 ・退院前カンファレンス等を通して得た児童生徒に関する情報を転出先職員と共有するよう努める。
	安全で安心できる学校	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の避難方法や探索時のマニュアルの見直しをし、病棟や学校と連携した訓練を行う。 ・施設内教育の児童生徒の実態や学習への取り組み、学習内容などについて本校職員に周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の避難方法や探索時のマニュアルの見直しを行い、それをもとに訓練を行う。 ・児童生徒の実態や取り組み等を本校職員に周知してもらうため、通信を作成して回覧する。

施設内教育 こばと・中央	自立活動を含めた適切な指導と評価	・児童生徒の個々の目標や実態に関する情報を、保護者との懇談や前籍校からの情報を得て、関わる職員全体で共有し、支援の在り方について検討する。学期ごと学習状況や支援方法を職員間で確認、検討し充実を図る。	・児童生徒一人一人に必要とされる力が育つよう現状に即した支援を心掛ける。
	地域連携の推進	・主治医、病棟職員、その他関係諸機関との情報交換・共有により児童生徒の実態把握に努め、指導・支援の充実を図る。	・送迎時の病棟職員との受け渡しや連絡帳でのやりとりを基本にし、さらに定期的に行われる病棟職員との連絡会等やりハビリの見学等により連携を深める。
各重点目標の具体的方策と留意点			
1. 自ら学び考え行動する態度の育成			
担当分掌	具体的方策		留意事項
研修部	・令和3年度まで取り組んできた研究の成果を指導、支援に生かせるように情報発信をする。 ・育成を目指す資質能力を身に付けることができるように、年間指導計画の目標や内容を整理する。		・積極的にアクティブラーニングの実践を取り入れ、指導の充実を図る。 ・教師同士の授業参観の機会を設定できるような体制づくりに努める。 ・各教科等の授業において、タブレット端末を活用しやすい環境を整備する。
視聴覚部	・児童生徒用タブレット端末の、個別の課題や授業での簡単な使用例を提示するとともに、使用頻度が低いところに対して、聞き取りを行い改善できるところがないか確認をする。 ・小規模の講習会や、研修部と連携しての夏季休業中の講習会などを計画、実施する。		
教務部	・各教科で個人タブレット端末を取り入れた授業実践を積極的に行う。 ・学年・学部間を超えた教師同士の授業参観の期間を年2回設定する。		
2. 自立活動を含めた適切な指導と評価			
担当分掌	具体的方策		留意事項
自立活動部	・自立活動の授業の様子を動画撮影し、共有フォルダに入れ、授業計画、改善の参考となるようにする。 ・職員の専門性の向上を図るため、自立活動に関する情報をまとめた資料を作成し、令和5年度の初めに提示できるようにする。		・自立活動に関する情報を発信し、指導の充実を図る。 ・新学習指導要領に基づいた指導、評価を的確に行えるように指導計画を立てる。
教務部	・三観点を含めた指導計画の整理を行う。		
3. チャレンジ精神			
担当分掌	具体的方策		留意事項
視聴覚部	・zoomやTeams等で使用できる広角カメラ、会議用マイク等の紹介を行い、それらの活用を推進してより充実した学習活動ができるようにする。		・ICT等を活用し、コロナ禍における新たな教育活動への取組みを模索する。 ・ビデオ通話等を活用して交流活動の機会を多く設定する。
自立活動部	・自立活動の備品、消耗品、個人が作成した教材・教具を学習の目的別に整理し、全職員が閲覧可能なデータベースを作成する。		
教務部	・日常生活全般を通じた、また、生活単元学習及び総合的な学習の時間等を通してSDGsについての取組を行う。 ・ICTを活用しての交流活動について充実を図る。		
4. 地域連携の推進			
担当分掌	具体的方策		留意事項
研修部	・研究の取組をホームページにおいて情報発信をする。 ・社会に開かれた教育課程を目指し、ランドデザインの作成をする。		・ホームページを定期的に更新し、本校の教育についての情報発信を積極的に行う。 ・地域の学校や福祉施設等との繋がりを大切にしながら、必要な連絡調整を行い、地域社会との連携を密にする。
視聴覚部	・ホームページの写真やそれに付随する文章など、更新内容自体は関係する職員に依頼して担当してもらい、更新作業は集約して更新スピードを上げるようにする。		
進路指導部	・ホームページに、動画等の情報発信をする。(進路学習、作業学習、校内実習等々) ・職業安定所や関係諸機関と連携し、企業及び福祉事業所を対象とした学校見学を実施して学校の様子を知ってもらい、社会や地域への円滑な移行に向け、連携を強化する。		
地域支援部	・子どもの発達について悩みをもつ保護者や、地域の小・中学校・高等学校等に対して、発達障害児等支援・指導検討会や巡回相談やあゆみ相談を行ったり、ホームページを通して特別支援教育についての情報発信を行ったりして、センター的機能についての役割を果たす。		

5. 基本的な生活習慣や社会人としてのマナーの育成		
担当分掌	具体的方策	留意事項
保体部	・早寝早起き朝ごはんの重要性や、規則正しい生活リズムの定着をに向けた取り組みを通して指導、支援の充実、生活習慣の向上を目指す。	・挨拶や丁寧な言葉遣い等の基本的なマナーについて、学校生活全般を通して体験的に身に付けられるような指導を行う。
指導部	・学校内外におけるルールやマナーについて考える機会を設け、学校生活全般を通して自ら判断し正しい行動ができる支援を実践する。	
進路指導部	・将来の社会生活、働くことに必要な力として、健康管理や規則正しい生活リズムの定着に向けた指導、支援を作業学習や進路学習にて行っていく。 ・社会人のマナーとして、元気な挨拶や身だしなみ、姿勢・態度、礼儀、丁寧な言葉遣いの大切さを伝えて、普段の学校生活から実施していくように促す。	
6. 安全で安心できる学校		
担当分掌	具体的方策	留意事項
総務部	・学用品購入の手順や購入できる物品の提示を分かりやすくし、計画的に購入ができるようにする。 ・各校務の文書ファイル表示を統一し、書類棚を整理して利用しやすくする。	・学用品費の購入手続きにおいて、庶務部と連携をとりながら進めていく。 ・他校総務部の情報を参考にしながら、書類棚の整理を進める。 ・必要に応じて危機管理マニュアル等の内容の更新を行う。 ・感染症予防のために必要な安全対策を徹底する。
保体部	・安全安心な活動を通して、けがの防止や病気の対応に向けた指導支援の向上を目指す。 ・愛知県医療療育総合センターや近隣病院、学校医との連携を密に、連絡相談しやすい環境作り組織力を目指す。	
指導部	・全校共通の「約束」を幼児児童生徒に周知し、いじめは絶対に許されないという意識を醸成する。 ・「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの定義や認知についての共通理解を職員に徹底し、いじめの防止と早期発見に努める。 ・防犯、防災教育の充実、訓練や研修の計画的な実践と内容等の創意工夫によって、防犯、防災に対する幼児児童生徒及び職員の意識を高める。	
地域支援部	・関係機関や福祉サービス等について集約し情報発信したり、活用できる地域の資源に職員や保護者をつないだりし、他機関との連携に努める。	
学校関係者評価を実施する主な評価項目	・内部評価表による本年度の評価結果について ・保護者アンケートの結果について ・在校時間等の状況記録の結果を活用し、業務の適正化及び教職員のメンタルヘルスの保持に努める。	
		・職員のライフワークバランスに十分に配慮しながら業務改善を推進する。